



都連青年部通信

部落解放同盟東京都連合会 青年部
2017年 11月号

〒111-0024 台東区今戸 2-8-5
TEL 03-3874-7311

雇用相談のお知らせ

◆日時:毎月第3水曜日
13:30~(3.8月は別日程)

◆場所:東京都人権プラザ
(台東区橋場 1-1-6)

◆内容:国と都の専任の担当者が仕事探しの手伝いします。

- ①就職や仕事探しのサポート
- ②職業訓練や非正規から正規へのキャリア・アップの相談
- ③失業・求職時の居住や生活費などの生活相談・支援

◆費用:無料

◆問い合わせは各支部へ!

10月 取り組み

- ◆10月4日(水) 『翁長知事の工事差し止め訴訟支援! オスプレイ配備撤回! 辺野古新基地建設を許さない10.4集会』
- ◆10月10日(火) 『清掃・人権交流会・と場視察』
- ◆10月15日(日) 『きねがわスタンプラリー』
- ◆10月22日(日) 『葛飾支部 こども祭り』『荒川支部 さつき会館祭り』
- ◆10月25日(水) 『朝鮮学校の子もたちに学ぶ権利を! 全国集会』
- ◆10月29日(日) 『人権ネットワーク東京 座談会』
- ◆10月30日(月) 『狭山事件の再審を求める上野駅前・情宣行動』
- ◆10月31日(火) 『狭山事件の再審を求める市民集会』

今後の予定

- ◆11月16日(木)18:30~ 飯田橋 セントラルプラザ10階
『つながりの場所として被差別部落を考える—スピーカー:瀬戸徐映理奈』
- ◆11月18日(土)13:30~ 場所:練馬区立厚生記念会館 『第2回聞き取り活動』
- ◆11月30日(木)18:30~ 場所:カメラプラザ 5階第1.2研修室
『辺野古新基地建設を止めよう! 11.30 東部学習集会』 同封のチラシ等を参照してください。

≪第2回 聞き取り活動≫IN 練馬支部
 とき:11/18(土) 場所:厚生記念会館

青年部学習交流会

10月20日(金)18時より、東京解放会館にて、青年部学習交流会をおこないました。最初の30分は学習に充てるという事で、「明治維新・帝国憲法『解放令』」について学習をおこないました。

江戸時代から長吏・被差別民衆は、自分たちを貶める醜名を除去するよう幕府等に訴えてきました。そして1871年の解放令が発令され、賤民身分は廃止されました。それと、同時に専売権も奪われ、部落の貧困化は進みます。明治に入り、西欧型「近代文化」を取り入れたい政府は、「納税・教育・徴兵」+(衛生的)を義務化しました。貧困により、無学、不衛生を強いられていた部落は、新たな差別も受けはじめ、近代における部落差別として再生産されました。どんなに苦しい差別のなかでも、先人らは、泣き寝入りすることなく、闘い続け「解放令」を武器に勝利した裁判結果なども残されています。「解放令」(太政官布告):1871年8月28日(明治4年)

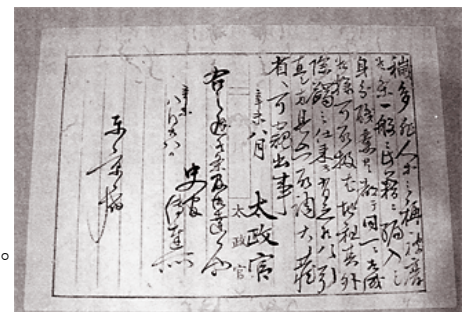
※太陽暦だと10月12日

「穢多非人等ノ称被廢候条自今身分職業共平民同様タルヘキ事」
(えたひにんとうのしょうはいせられそうろうじょうじこんみぶん
しょくぎょうともへいみんどうようたるへきこと)

賤民身分廃止 ⇒身分・職業=平民

太政官:王政復古のもと太政官制が復活。1885年内閣成立まで存続。

臣民:天皇のために尽くすよき人間=よき日本人として強調。



10月の学習は解放令前後を学びました。11月は練馬支部で第2回聞き取り活動をおこないます。お話しいただく方は、結婚後から練馬で生活し、練馬支部にて活躍された女性です。戦争体験、疎開先での差別体験、結婚するまでの道のり、結婚後の生活などをお話しいただきます。選挙で、改憲がより現実的になり、戦争へと突き進みそうな今だからこそ.....戦争の酷さ・戦後の過酷さを、聞き取り活動を通じて、多くの人に知っていただきたいです。

また、練馬は部落の歴史が残る町です。そこで、解放運動を続けてこられた経験をお話しいただくことで、今後の青年部活動に役立てて行ければと思います!

きねがわスタンプラリー 2017

10月15日(日)に墨田区社会福祉会館、産業・教育資料室きねがわ、都立皮革技術センターの3か所を巡るスタンプラリーがひらかれました。社会福祉会館では、昔の錦糸町の模型や「よみがえったくろべえ」の絵本の展示があり、資料室では、特別展示で昔から未来の「きねがわ」がパネルや模型で展示されていました。技術センターでは、実際に動いているドラムなどの機械を見ながら、鞣しの工程を説明いただけました。また、それぞれの場所で、皮革工芸も体験でき、皮革に親しめる素晴らしいイベントでした。当日は、雨にも関わらず400人以上が参加し大盛況でした。



かつしかこども祭り

10月22日(日)に葛飾区同和対策仮奥戸集会所にて、第22回こどもまつりが開かれました。台風の接近する大雨で、生憎の天気でしたが、近隣から、50人以上が参加し、子どもたちの笑い声が響く、楽しい会になりました。駄菓子屋、綿あめ・焼き鳥・すいとん・フランク・ガチャポン・ヨーヨー釣り・射的と、まるで縁日の様なお店が並び、子どもも大人もワクワクした気持ちになりました。葛飾支部の青年たちがスタッフとして頑張る姿や、子どもたちの笑顔に触れ、解放運動の明るい未来を描くことが出来ました。



さつき会館まつり

「第29回荒川さつき会館まつり」が10月22日(日)に開催され100人以上が来館しました。例年は晴天なのに、今年は残念ながら雨で、客足を心配しましたが、たくさんの地域の人が集まり、荒川支部女性部のフラワーアレンジメントの展示や、舞台でおこなわれた催しを楽しみました。また、ゲームコーナーでは、子どもたちが、射的や輪投げに夢中になり、喫茶コーナーは、紅茶やコーヒーと手作りクッキーが疲れを癒してくれました。今回、さつき会館を訪れた参加者は、イベントや交流を通して、人権啓発の拠点としてある会館の位置づけを確認することが出来たと思います。焼きそばも美味しかったです。



狭山差別裁判の再審を求める 上野駅前情宣行動 10.30

都連青年部は10月30日、上野駅前「狭山事件の再審・全証拠開示を求める情宣行動」を、関東ブロック青年交流会と、高知県連の青年、狭山共闘会議青年交流会と共に行ないました。

狭山共闘会議青年交流会には、都連青年部、自治労都本部青年部、自治労清掃青年部、東水労青年女性部が参加し、狭山事件を中心に活動を行なっています。今回の情宣行動には、組合からも新しい青年部員が参加した事もあり、近年では最多の24名が集まりました。

寒さで足早に通り過ぎる人々の中にも、足を止めて耳を傾け、狭山事件に興味を持ってくれる方もいました。石川さんは、54年間無実を訴え、今も見えない手錠がかけられていることを伝えると、自身で「インターネット等で調べて学びたい」と話された方もいて、情宣活動の意義を再確認できました。また、初参加の青年も含め、事前に学習をして来たとの組合青年部からの報告もあり、内側からも外側からも、狭山の輪が広がっている事に力強さを感じました。

終わりにには、其々の団体から挨拶を頂き、狭山事件の完全勝利を目指して、繋がり大切にしながら闘う事を約束しました。



芝浦と場視察 10.10 で感じたこと

10月10日、12日に、清掃・人権交流会主催で品川の東京都食肉市場(芝浦と場)の視察・交流会が行なわれました。都連青年部からは10日の回に3人が参加し、10日全体の参加は14人でした。

午前には、東京都食肉市場責任者の方から説明を受けた後、牛と豚のと畜・解体作業の全工程を見学しました。午後は、豚のセリを見学した後、お肉の情報館で「お肉の生産工場・食肉市場・芝浦と場」を鑑賞。その後、全芝浦屠場労働組合の皆さんとの交流会で意見交換が行なわれました。

見学では、豚の作業工程を見た後、牛の作業工程を見学しました。どちらの作業工程も自動化されている部分はあるものの、多くの部分は、と場職員の熟練した技の数々によって作業が進められていました。

次に豚のセリを見学しました。せりでは、仲卸業者や売買参加者が無線応札機のボタンを押して、一番高い値段をつけた人がその枝肉を買うことができます。

枝肉には格付けがされており、買い手が枝肉を買う重要な目安となっているそうです。豚の枝肉は「極上」、「上」、「中」、「並」、「等外」の順に5段階、牛の枝肉は「A5」から「C1」の15段階になっていて、枝肉の格付けが高いものほど競っている人が多い印象でした。

お肉の情報館の会議室で鑑賞した「お肉の生産工場・食肉市場・芝浦と場」では、見学した作業工程や、BSE(牛海綿状脳症)やO157などに対する衛生対策、と場差別問題も学ぶことができ、見学の後だとより理解が深まると感じました。この映像は、小学校5、6年生以上の社会科見学などでも上映しているそうです。

全芝浦屠場労働組合の皆さんとの交流会では参加者1人1人が見学の感想と質問・意見交換を行ない、交流を深めました。

意見交換の中で、全芝浦屠場労働組合副委員長が話した「作業工程の流れを知ってもらうことが差別や偏見をなくすために一番良い」という言葉がとても印象に残りました。実際に作業工程を間近で見学したからこそ、その言葉の意味がよくわかります。どんな作業をしていて、どんな表情で作業をしているのか、見て感じて深く理解をすることで、正しい認識を持つことができると見学をして思いました。

今回の芝浦と場見学与全芝浦屠場労働組合の皆さんとの交流会を通して、正しい理解と認識を深めれば、身勝手な想像や憶測だけでと場差別をしたり偏見を持ったりする人はいなくなるだろうと強く感じました。

～芝浦と場～

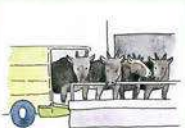
芝浦と場は1936年に開場しました。1966年に中央卸売市場となり、東京都に11ある中央卸売市場で唯一の食肉の市場であり、食肉流通の拠点です。

敷地面積は64,108㎡(200m×300m)あり、と畜施設としては全国一となっています。大動物(牛)の関係施設は3ライン、小動物(豚)は2ラインあります。

1日のと畜可能頭数は、牛430頭・豚1400頭です。作業工程では、大量の水が使用されるので、水処理センターでは、1日4100tの水が処理がされています。



① 大動物けい留場



運ばれてきた牛を休ませ、体を洗って清潔にする



② 片足をジャックルにかけ、つり下げる頭をとり、つり下げ皮をはぎ内臓を取る

③ 内臓検査



内臓に異常がないか検査し、頭からは延髄を取り出しBSEの検査もする

④ 背割り作業



電動ノコギリで背中を切り下げて、半身の状態(枝肉)にする

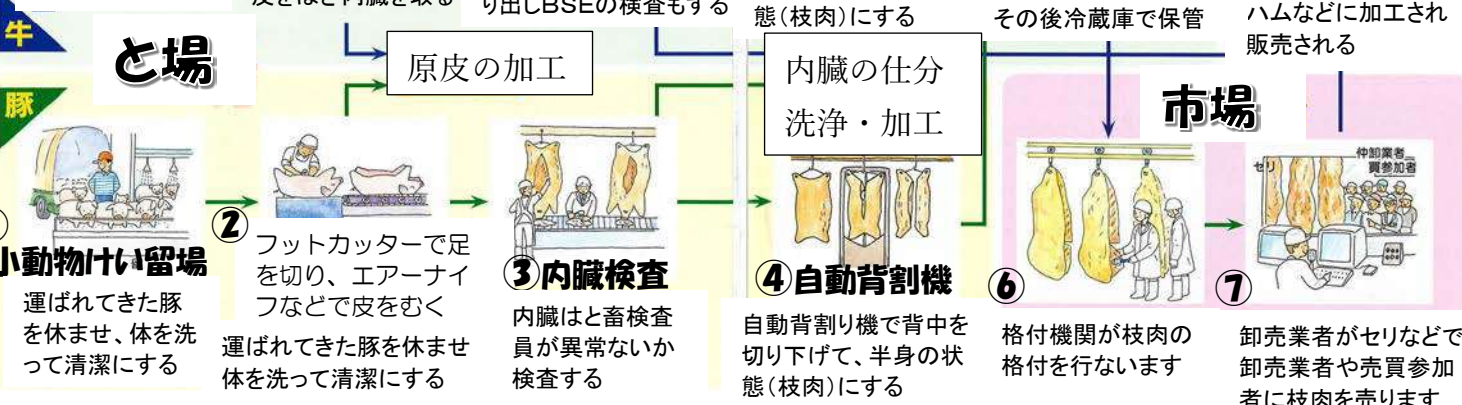
⑤ 枝肉検査



と畜検査員が枝肉に異常がないか検査する。その後冷蔵庫で保管



⑧ 小売店や加工業者によって、精肉やソーセージ、ハムなどに加工され販売される



～練馬の部落史～

～鎌倉時代

現・練馬区あたりに人が住みはじめたのは、約3万年前。旧石器時代のことで。そこから時代は流れ、鎌倉時代に入ると、荒川流域に勢力のあった豊島氏が領地を広げ、練馬城を築き、武蔵国豊島郡一帯を支配するようになりました。練馬城址は、現在の豊島園遊園地にあたり、隣接して被差別部落の地域があります。この地域には、阿弥陀寺があり、時宗の救済の対象者が存在し、中世から蔑視される人々が存在していたことが推測されます。

室町～戦国時代

1477年、太田道灌により豊島氏は滅亡し、その後、北条氏の支配へと移り変わります。北条氏から、各地に散在する、長吏・かわたへ充てた書状が存在します。内容に差別的なものではなく「皮役」の任命、その見返りとして皮革の専売権を認める事が記されています。これにより、皮革集団の組織化・触頭を中心とした皮革生産・収取体制が整えられていきました。

～江戸時代

1590年、徳川家康が江戸城に入り、関東支配が始まります。これを機会に、江戸では弾左衛門が自らの権利を主張し、関東一帯の被差別民衆を「長吏頭」として支配するようになります。練馬の被差別部落は、長吏小頭「杉本惣兵衛」が支配しました。

杉本惣兵衛

「惣兵衛」は杉本家の当主が襲名する通名です。下練馬村の枝村である谷戸村(80戸)の名主と称し、総庄屋の正月の大盤振舞に近在の7カ村の名主と共に参加し、名主筆頭として当主の左側に座次しました。これは、長吏村の名主という特殊な性格だからこその格式です。

惣兵衛の屋敷は、白山神社を含む3000坪という龐大な敷地で、役所の役割を担う、牢屋、皮蔵、勤番役員の詰所などの建物もありました。財を成した惣兵衛家でしたが、幕末の長州征伐で莫大な出費を強いられました。そして、解放令により、斃牛馬の処理など皮革業の特権もなくなり、惣兵衛家は没落しました。

～近代

近代の産業として、軍靴と草履表が練馬を支えました。草履表は市場での評価も高く、成功を収めました。作業工程で出る硫黄の臭いが差別の原因にもなりました。地域社会の構成は、資本家層と労働者層に二分化されました。また、移住者も増え混住化が進みました。

明治9年に小学校が創立される時、被差別部落は、重い負担を課せられました。しかし、開校すると、差別により通学を拒否されました。

根強く残る差別に負けず、練馬は融和運動の先進地となりました。

大日本紡績(カネボウ)工場

日本紡績会社は地域の雇用を約束し、練馬駅北口一帯を1921年に買い上げ、工場を建てました。しかし、実態は大変差別的で、地域側を黒塀で覆い、正門を反対側に設けたために駅との間が遮断し不便を強いられました。それに加え、煙突やトイレ等を地域側に設置した為、排煙や汚水にも悩まされました。1970年代に工場が閉鎖されると、跡地を民間企業に売却されようとしたが、練馬支部の取り組みにより、東京都が跡地を取得し、現在の環境が整えられました。2015年12月、練馬区によって平成つつじ公園に、この土地をめぐる歴史的経緯を説明したプレートが設置されました。

第2回聞き取り活動 IN 練馬支部
2017年11月18日(金)13:30～
練馬区立厚生記念会館



←上にある、ウオーターズライダーが練馬城址になる。

白山神社の敷地にある、樹齢約900年の大欅。練馬の部落の歴史の長さを感じる事が出来る。→



←馬頭観音。鎌倉道路沿いの路地にある。斃牛馬が置かれた場所と思われる。



↑惣兵衛屋敷の敷地にあった白山神社 現在も鳥居などに「惣兵衛」の文字が刻まれている。



↑地域内に点在した荒れた墓地を1979年に集め、阿弥陀寺に無縁塔が造られた。跡地は現在は駐車場



↑歴史的経緯を説明した石碑